

(別添 3)

【和歌山市】 校務DX計画

1 校務DXの現状

(1)業務のあり方の抜本的な見直しや削減

令和5年度の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検においては、児童生徒の欠席・遅刻・早退連絡について、クラウドサービスを用い、PC・モバイル端末等から受け付け、学校内で集計している学校(完全にデジタル化)が8.6%、学校から保護者へ発信するお便り・配布物等をクラウドサービスを用いて一斉配信している学校(完全にデジタル化)が0%に留まるなど、一部業務でツールや業務のデジタル化が進んでいない。

また、令和6年度開始時点では、教育委員会から学校へ行う調査について、クラウドを活用した形態になっていないものが多くあり、さらに、学校への連絡も紙ベースで行うものがほとんどであり、教育委員会全体での業務のあり方の抜本的な見直しや、これからの教職員の働き方について具体案を示すことが必要である。

(2)クラウドサービスの利用について

令和5年度の「GIGAスクール構想の下での校務DX化チェックリスト」による自己点検においては、保護者への調査・アンケート等をクラウドサービスを用いて実施・集計している学校(完全にデジタル化)が4.3%、学期中の宿題をクラウドサービスやデジタルドリル教材を用いて実施・採点している学校(業務の半分以上をデジタル化している)が2.9%とデジタル化が進んでいない。

一方で、様々なクラウドサービスの利用に対するニーズは高まっている。保護者や学校の利便性や効率性をさらに高めることができるように、教育委員会として様々なサービスに関すると調査や研究を行い、具体的な活用方法について学校現場に周知をしていく必要がある。

(3)校務系ネットワーク・システム等について

文部科学省は、令和5年度より「次世代の校務デジタル化推進実証事業」を開始し、クラウドベースの校務環境の構築を推進している。本市が次世代の校務デジタル化に対応するための課題は、以下の5点である。

- ・センター集約型のシステムであるため、柔軟性や拡張性に欠ける。
- ・校務用ネットワークの通信帯域が不足しており、大容量データの送受信やクラウドサービスの利用時に支障をきたす恐れがある。
- ・クラウドシステムに完全に対応した高度なセキュリティ対策の必要性。
- ・現校務支援システムがクラウド対応しておらず、最新の機能やサービスを利用できない。

2 校務DX化の今後の計画

市内の現状に対応すべく、以下のとおり校務DXに向けた検討を進める。

(1)クラウドサービス活用の拡充

・Google Workspace for Education等のグループウェアを活用し、チャット及びファイルの 共同編集、オンライン研修など、非同期のコミュニケーションを推進する。

・保護者用の連絡ツールや採点ツールなど、様々なクラウドサービスに関する調査や研究を行い、導入の在り方について検討する。

(2)生成AIの活用促進

・文部科学省指定事業「生成AIパイロット校」の実践事例を踏まえ、教職員に対する研修や実践事例の周知等を行う。

(3)教育データの利活用

・学習状況の可視化や個別最適な学習指導に向けてのデータ分析基盤の構築、教職員の情報活用能力の向上を図る。

(4)校務システムの刷新

・クラウドベースの校務システム構築のために、令和9年度から段階的にハードウェア、ソフトウェアを更新を実施していく。すべての校務系システムのクラウド対応や校務用ネットワークの帯域増強、新規格無線LANの整備、各種セキュリティ対策の強化、OSの最適化も含めて検討していく。